

平成24年度 させぼ文化ウィーク (佐世保市人材育成事業)

第九

交響曲 ベートーヴェン
(全楽章・ドイツ語公演)

市民200人による大合唱

この秋、佐世保の音楽・演劇・アートなどに関わる人々が中心となり、新しい文化の創出に挑む「させぼ文化ウィーク」
平成24年10月28日(日)～11月5日(月)
市民200名の大合唱による「第九」コンサートです。

指揮
大山 平一郎

Soloist ソリスト



大岩 千穂



森田真美子



佐野 成宏



中島 忠幸

Cast キャスト

指揮:大山平一郎 ソリスト:大岩千穂(ソプラノ・客演)、森田真美子(アルト)、佐野成宏(テノール・客演)、中島忠幸(バリトン)
オーケストラ:佐世保市民管弦楽団 合唱団:させぼ文化ウィーク合唱団 合唱指導:田代 悟



© U2 Classical Recording

文化
ウィーク

佐世保市制110周年記念

2012.11/4(日) アルカス SASEBO 大ホール
14:30/開場 15:00/開演

全席自由

料金:一般1,000円 学生500円(高校生以下) プレイガイド:アルカスSASEBO、川下本店、古川楽器店

主催:させぼ文化ウィーク実行委員会 協力団体:NPO法人 SASEBO音楽家振興協会、佐世保市音楽協会、佐世保シティ音楽連盟、
長崎県合唱連盟佐世保支部、佐世保市民管弦楽団 問合せ先:させぼ文化ウィーク実行委員会(アルカスSASEBO内) TEL:0956-42-1111



大山平一郎(おおやま・へいいちろう)
指揮者

京都生まれ。両親共に博多出身。ヴァイオリンを東儀祐二、江藤俊哉、鷺見三郎各教授に師事。1966年日本音楽コンクール、ヴァイオリン部門で入賞。1968年、英国に渡り、ギルドホール音楽学校を卒業。1970年に米国インディアナ大学でプリムローズ、リッチ、ギンゴールド、シュタルケル各教授に師事。1972年、マルポロ音楽祭にヴィオリストとして参加。1973年、カリフォルニア大学助教授に就任、翌年ニューヨーク国際ヤング・コンサート・アーティスト賞を受賞。1979年にジュリーニが率いるロスアンジェルス・フィルハーモニックの首席ヴィオラ奏者に任命された後、指揮の勉強を始める。1987年プレヴィンに、同楽団の副指揮者に任命される。1986年ラホイヤ室内楽音楽祭の芸術監督に就任し、1992年にはサンタフェ室内音楽祭の芸術監督に就任。両音楽祭の芸術監督を1997年に終える。1994年、チョン・ミョンフンから推薦され、12年間に在籍したクロスロード学校弦楽合奏団での指導を終える。2003年に30年に渡るカリフォルニア大学教授を終える。現在の米国演奏界の最前線を担うコンサートマスター・首席クラスのオーケストラ奏者や、次世代の音楽界を担う室内楽奏者を多く輩出し、教育者としても高い評価を受ける。1999年から5年間、九州交響楽団の常任指揮者。2004年から2008年まで大阪シンフォニカー交響楽団 ミュージックアドヴァイザー・首席指揮者を歴任。2005年、'福岡市文化賞'を受賞。2008年、文化庁の'芸術祭優秀賞'を受賞。日本エヴィカと、日本ピアノ界の重鎮であった故園田高弘氏と九州交響楽団で、ベートーヴェン"ピアノ協奏曲"全集とブラームス"ピアノ協奏曲第一番"を録音。現在、米国のサンタバーバラ室内管弦楽団・音楽監督兼常任指揮者。CHANEL Pygmalion 室内楽シリーズ アーティストティック・ディレクター。The Chamber Players。2012年8月22日現在

Profile



大岩 千穂(おおいわ・ちほ)
ソプラノ 客演

国立音楽大学卒業。ヴィオッティ音楽院オペラ科マスター・コース首席卒業。イタリア、フラヴィアーノ・ラボー国際声楽コンクール第1位。ヴェルディの声国際コンクール入賞。第1回国際オペラコンクールin Shizuoka最高位、及び三浦環賞他数々の国際コンクールに入賞。『椿姫』ヴィオレッタでイタリアデビュー後、98年サンタ・マルガレータ・オペラ・フェスティバル(オーストリア)『カルメン』ミカエラで急遽代役出演し大成功を収めた。99年ハンガリー国立歌劇場『ラ・ボエーム』ミミ、アスコリ・ピツェーノ歌劇場及びフェニーチェ歌劇場(イタリア)、『蝶々夫人』でタイトルロールを歌い絶賛された。02年フロリダ・パームビーチ・オペラ『蝶々夫人』(レナータ・スコット演出)でアメリカデビュー。03年には名門チェコフィルハーモニー管弦楽団、ボリショイ劇場管弦楽団とヴェルディ『レクイエム』で共演。国内では新国立劇場、東京二期会、藤原歌劇団の他などで数々の作品に出演し観客を魅了し続けて06年兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』、09年びわ湖ホール『サロメ』、2010年愛知県文化振興事業団『ナブッコ』に出演し観客を魅了し続けている。真のリリコの逸材としてさらなる活躍が期待されている。日本声楽アカデミー会員。二期会会員。



森田真美子(もりた・まみこ)
アルト

武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。
小浜高校、大村高校、五島南高校に勤務し、今年で清峰高校に勤務して12年目になる。
各校において、合唱、吹奏楽の指導にあたり、生徒とともに数々のコンクールに出場。
また『魔笛』の童子役や、アルカスSASEBO開館10周年記念オペラ『秘密の結婚』フィダールマ役、その他にも『フィガロの結婚』、『魔笛』の合唱などでオペラに参加。
現在、長崎県立清峰高等学校勤務、佐世保市音楽協会会員。



佐野 成宏(さの・しげひろ)
テノール 客演

東京藝術大学声楽科卒業後、アリゴ・ボイト音楽院(伊)に留学。1992年の関西西伊コンコンソ第1位・ミラノ大賞受賞をはじめ、欧米各国の国際コンクールにて上位入賞を果たす。1996年パルマ・テアトロレージョでヴェルディ『レクイエム』のテノールソロとしてデビュー。2001年にはローマ歌劇場でのブッチーニ作曲オペラ『つばめ』に、同芸術監督であるジェルメッティ氏の強い希望でオペラデビュー。近年では、2008年新国立劇場オペラ『ラ・ボエーム』のロドルフォ役、小澤征爾指揮、ベルリオーズ『ファウストの劫罰』ファウスト役でも好評を博した。2009年4月『天皇皇后両陛下ご成婚50周年ご即位20周年記念祝賀コンサート』に出演。同年6月～7月には兵庫県立芸術文化センター佐渡裕指揮オペラ『カルメン』にドン・ホセ役にて出演し、多くの観客を魅了した。また12月には静岡グランシップに於いての鈴木忠志演出オペラ『椿姫』に出演し、圧倒的な存在感を示した。2010年2月の三枝成彰作曲オペラ『忠臣蔵外伝』でも高い評価を受ける等、ますます活躍の場を広げている。テノール・リリコとして光り輝く声を持ち、オペラの舞台には欠かせない存在感のあるプリモとして活躍するテノール歌手である。●公式ホームページ<http://www.shigehirosano.com/virtuoso/>



中島 忠幸(なかしま・ただゆき)
バリトン

「フィガロの結婚(従僕フィガロ)」『魔笛(鳥刺しパパゲーノ)』『カルメン(闘牛士エスカミーリョ)』『カヴァレリア ルスティカーナ(馬車屋アルフィオ)』『ラ・ボエーム(画家マルチェッロ)』『蝶々夫人(領事シャープレス)』『愛の妙薬(軍曹ベルコーレ)』『秘密の結婚(ロビンソン伯爵)』をレパートリーとしている。創作オペラ『赤絵まんだら』『二十六人の殉教』日本初のオペレッタ『二人の猟師とミルク売り娘』に出演。バスソリストとして『メサイア』や『交響曲第9番』に出演するほか、県内の小中学校でのコンサート(『蝶々夫人』、『ヘンゼルとグレーテル』)やアルカスコンサート(声楽アンサンブル、『フィガロの結婚』)、長崎短大公開講座や地域のふれあいコンサートに出演している。東京音楽大学音楽学部声楽科卒業。小川 源、篠崎義昭、水野賢司の諸氏に師事。現在、佐世保市立早岐中学校教諭 同校吹奏楽部顧問 佐世保シティ音楽連盟事務局長



佐世保市民管弦楽団(させぼしみんかんげんがくだん)

1964年7月18日に団員数30名で発足。翌年から毎年定期演奏会を開催。第5回定期演奏会では、團伊玖磨氏に依頼して作曲していただいた『西海讃歌』を同氏の指揮で初演。以後、様々な場面で『西海讃歌』を演奏。約20年間活動を続けた後、メンバーの減少等の理由により、7年余りの間活動を休止。1991年に活動再開、現在に至る。佐世保市民を中心にメンバーを構成し、地域文化の向上と青少年の情操教育に寄与することを目的としながら、年2回の定期演奏会を中心に、各種演奏会・イベント等に参加する活動を行なっている。2002年11月に開催された「全国豊かな海づくり大会」では、天皇・皇后両陛下をお迎えした式典での演奏を担当。2005年度には、「西海国立公園指定50周年記念式典」「第47回豊かな海づくり大会・タベのつどい」でも演奏を行なっている。活動方針のひとつとして、地元の音楽家との共演を大切にしている。「平成7年度長崎県教育委員会特別功労者表彰(団体の部)」受賞。「平成16年度佐世保市教育委員会文化功労賞」受賞。



文化ウィーク
平成21年度から実施された「させぼ文化のひとづくり支援事業」を発展させ、この事業に携わった「音楽」「演劇」「アート」等の団体が中心となり、市民の皆さんと創りあげる、佐世保の魅力を発信し、将来に向けて人材を育成していく事業です。
第九の大合唱の他にも、期間中、佐世保を舞台とした演劇公演やアートイベント、絵本を題材とした体験型展示や佐世保の文化を考える「させぼ文化フォーラム」など、盛りだくさんのイベントが展開されます。

※第九の単独公演チケットのほかに、演劇との共通チケット(1,500円)もあります。